令和8年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立田無小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	【花山さんの文章の一部】の下線部アを漢字を使って書き直す。（みじか・い）	74.8%	今年度の結果は、全国平均よりも東京都の平均の数値がだいぶ高いという結果になった。その数値よりも大幅に上回った問題（項目）が何問もあり、集団として、学力を向上できていることが分かる。教科担任制での授業が定着し、先生たちは「専門性を高めた授業を」子どもたちは「もっと知りたい」という意欲を高めることにつながっている。タブレットを使っての反復練習もアプリを通して行っており、その成果が出たものと考えられる。	まず、全体を通して、全国平均、東京都平均よりも無回答率が高い。それは、分からない問題には最初から取り組まないということであり、「まずやってみる」ということから避けているということである。しかし、正答率は全体的に高い傾向にあり、学力の二極化が見て取れる。学力が高くない層へのアプローチが急務である。また、基本的に「書き」問題の正答率が低く、「書く」ことに対する苦手意識は強いようだ。特に、自分の経験と結び付けて記入するという項目に苦手意識が見られる。国語だけでなく、道徳での自己の振り返りや、算数の授業での振り返りを通じて、今日の学習を今後の人生にどのように生かしていくかという視点をもたせて記述させていく必要がある。
	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く。	70.1%		
	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。	57.9%		
	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。	34.6%		
算数	昔あそびの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く。	81.3%	全国平均よりも全項目で、正答率が高く、基本的な力は身に付いている。特に正答率が高かったのが「一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く」という問題と「5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ」という問題である。どちらも全国平均よりも10%程度高い正答率となっている。どちらも基礎的事項であり、基礎をとても大切にしていることが分かる。そして、基礎ができていることで応用に生かすことができる。ということである。朝学習での学習アプリの活用、隙間時間が生まれたときのタブレットの活用、オクリンクプラスを使っての友達との意見の交流など、授業での有効的なタブレットの使用がこの結果につながったと考えられる。	無回答率が2桁を超えた問題が1つある。それは、「イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く。」という問題である。これは、割合と比較量から基準量を求める問題である。この問題を解くときに、必要になってくる力は、数直線を書く力である。この関係性を数直線上に正しく記入することができれば、正しい数量関係を導き出すことができる。基準量が割合「1」になることを探すことができれば答えを出せるのだが、式を頭の中で考え、式だけで答えを完結させようとするため、正しく基準量、比較量を捉えることができない。数直線のよさを認識し、一見遠回りに見える作業が答えを出す近道になるということを今後理解させていく。 「二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。」という問題も正答率が低かった。この表は2つの関係を1つの表にまとめているもので、ここから条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題である。縦と横から複数の見方ができるので、前半、後半、ともに組み合わせを考えていく必要がある。ここに時間がかかったことが正答率が低い理由の一つであると考えられる。もう一つの理由は、1つのデータの読みとりではなく、複数のデータが組み合わさったものを読み取ることに慣れていないことが原因である。初見の問題には、「既習事項を使って解く」ことを徹底していく必要がある。
	74291の百の位の数を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ。	67.3%		
	イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く。	60.7%		
	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。	20.6%		